

大西さんに初めてお目にかかったのは、沼津高専の住吉光介さん、愛知淑徳大の親松和浩さんと共に2007年3月に開催した第1回 Numazu WS on supernova EOSであったと記憶しています。このWSは小規模でありながら、当時北大にいらっしゃった大西さんと石塚智香子さん（現在東工大）、椿原康介さん（現在旭川高専）、早稲田大の山田章一さん、中里健一郎さん（現在九大）、東京理科大の鈴木英之さん及び親松さんが住吉さんの元に集うという、天体核物理学を牽引する研究者の非常に密な研究会となり、少数の学生さんも加わり、重力崩壊型超新星爆発及び中性子星と核物質状態方程式について、じっくりと時間をかけて議論をする、非常に貴重な機会となりました。このテーマについて我々のグループでは、現実的核力から出発した変分法により核物質状態方程式を作成し、それを超新星爆発数値シミュレーションに適用する研究に取り組んでいましたが、我々のグループの発表を聞いていた大西さんが、我々の手法の一番肝心なところで、「これは偽物やな」とボソッと呟かれ、内心ドキリとしたことを、今でも鮮明に覚えています。

このWSにて大西さんと面識を持つようになったことは、私にとって非常に貴重な財産となりました。大西さんは我々の研究の欠点を見抜きつつも、常に我々の研究を encourage してくださいました。おそらく大西さんが、日本の核物理学全体を盛り上げることを、とても重視されていたからなのだろうと思います。北大から京大基研に移られてからも、最終的にこの状態方程式を完成させた富樫甫さん（現在阪大 RCNP）と共に、さまざまな面で大西さんに支えていただきました。

研究の場では、ご自身の非常に幅広い研究領域に基づき、どのテーマの研究発表に関しても有益な質問やコメントをなさり、それを聞いているだけで私も大変勉強になりました。研究の場を離れると、とてもひょうきんに、常に場を盛り上げてくださいました。学会や研究会への出張の移動の途中で偶然ご一緒させていただくと、出発直前の深夜まで学生さんと一緒に研究成果を出すために苦勞された話を伺い、私も気が引き締まる思いがしました。基研研究会へ参加したりスクールを開催させていただいた際なども、大西さんには非常にきめ細やかにサポートしていただきました。

最近ではなかなか研究最先端の話題についていけなくなることもあり、日本物理学会の休憩時間で大西さんを見つけた際には、キーワードと要点を教えていただきました。大西さんは常にポイントを噛み砕いて教えてくださり、私の初歩的な質問にも真摯に答えてくださるので、学会の休憩時間の大西さんとの会話は、私にとって非常に勉強となる機会でした。

ですが最近、学会等でお目にかかる機会が少なくなり、大西さんはどうされているのかと思った矢先に、今回の大西さん訃報に触れ、本当に驚きを禁じ得ませんでした。まだまだお若かったですし、これからやろうとされていた研究も多数あったはずだと思うと、やりきれない気持ちになります。

これまで大西さんにお世話になった様々なことに、心より御礼申し上げますとともに、謹んで、大西明さんのご冥福をお祈り申し上げます。

早稲田大学 鷹野正利